
衛生兵Aくんのお話

うしおなとら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

衛生兵Aくんのお話

【ZPDF】

Z1577Z

【作者名】

うしおなどり

【あらすじ】

少し変わった恋姫をどうぞ。執筆していただけるといつ神のような方がいらっしゃいましたら」一報ください。

青年は今の状況に呆然と立ち入っていた。

「……？」

蒼天は高く澄み渡り、見渡す限りのだだつ広い荒野。映画か何かで見るしかないような、一般的日本人には旅行にでも行かない限り見ることのできない光景。だがしかし、彼は少々違っていた。

まあそれは一先ず置いておいて、ぐる～りと辺りを見渡してみる。地平線の彼方すら見える、そんな大地。

ジリジリと、照り尽くす太陽が恨めしい。そしてシンと鼻につく嗅ぎ慣れた鉄の匂い。

「やつぱいも？……つてですよね、俺の仕事場なわけだもんね

」

恐らくここに来たのは誰かに拉致られた？

不穏な考えも浮かんでくるがとりあえず消去。

今やるべきこと、自分がするべきことはただ一つなのだから。

「さて、今日も元気に直していきますかイ

ポツンと見える黄色の布か旗印。
そちらに掛けた彼は走つて行つた。

出会いはいつだって唐突。

でもいつだってするべきことはただ一つ。

そう、たとえ過去に送られたとしても。

「武器は鎧の付いた蛮刀だけ？ いつの時代のゲリラだよ」

「誰だお前は……」

「ああああぶない人かもしれないんだな」

「アニキー、イテヒよおー……」

「怪我人発見つと、なかなかナイスな怪我だな」

「だから誰だよ……」

「俺か？ そうだな……先生とでも呼べ」

主人公たる者たちに少しだけ関わってきた彼ら。
そんな彼らは奇跡を見る。

「とつとと湯を沸かさんかい！」のチビが死んだらどうすんだ……

「いいいいいいいまやつてるんだな」

「先生ー！」の針を焼いてきたぜー！」

「俺の身体に何する気だー！」

「簡単簡単、糸を通すだけだからなー」

「……ツー！そんなアブねえ」と出来るわけないだりー？

「……………じやあ…………逝くぜイー。」

「…………みぞやアアアアアアアアアーーー！」

やがて少しだけ名の知られるようになった彼。
でも彼のやることは決して変わらない。

「腕がスッパリいくてんねえ、無茶したらいかんでしょう？」

「ウルセヒ、女相手にやられて逃げ帰れるかー！」

「はいはいスゲヒスゲヒ、だつたら痛いのでも平氣だよな？」

「へ？いや、それとこれとは話が違う……

「直つとくナビ波才の田那、この治療は……超イテヒよ?」

彼の前では誰もが平等。

それは彼の大事なモットーだから。

「折れてんな……、うしー切つて無理やり骨繋げるか

「先生……大丈夫なのか?」

「もううんだ、まあ任せとけ」

「アンタ医者なんでしょうー私の脚切れちゃったの……」

「ほわあほわあほわあああああ」

「怪我人は黙つてろーーーつてこんだけ?毛筋ぐれえじやねえかーー?」

「そんなこと言つても切れたんだもんー早く治療してよ」

「やだ」

「なんどよー」

「直して欲しけりや並ベコノヤロー」

戦はひとまず終結する。

そんな彼を求める人も現れた。

「あなた……凄まじい医療を用いるやつね」

「普通だぜ？ただの戦場医だし」

「私のものになりなさい、そしてその技術を広めなさい」

「なんどよ

「やだ」

「……どうしてかしら」

「その方が多くの人を救えるでしょ？」

「俺の食いぶちがなくなるから」

「……」

「……」

「え？」

「へ？」

知り合つたのは現代人。

同郷の者に少し心がいやされる。

「究極の萌えはメイド服だと想つんですよ」

「馬鹿言つひやいけねえ、やつぱ至高な軍服かナース服だろ」

「……軍服だらけですよ?」

「あんなもん軍服じやねえよ」

彼は所詮衛生兵。

チンの使いとは違うのだ。

しかしそんな彼にもラブロマンスが。

「ふむ、暇だつたか?」

「まあなんとかねイ……用事か?」

「こや……そつて駄ではないが……、それよつての?」

「煙草、これが無いとダメになつてしまつてねえ」

「やうか

「や

「…………だな、もし暇だつたら食事でも「あ…………ベつした
たてついた」

「いや、まつと歎みがな…………恋煩うつてヤツだ

「ま…………まう？」

「水色髪がな映えるヤツだな…………一皿まれつてヤツだ

「それはイイー」とだーーー是非皆山とこつものをあるべれだーーー

「やうか？」

「ああーきつと粗手も同じ氣持ちだーーー」

「やか…………じやあ俺わ、越靈つて名前だつけ?アイツに並んでみ
るわ

「……」

「え?」

「アーリー

『たして彼はこの店で誰かを救えるのか？』

「そんなもんよつ金が欲しいば、あと真券買ってえなー』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1577n/>

衛生兵Aくんのお話

2010年10月10日20時57分発行